

県指定重要文化財

木造阿彌陀如来坐像

所在地 南会津郡伊南村大字古町字東居平

本尊は定印を結んだ阿彌陀如来坐像で、総高百四センチメートル、檜材寄木造漆箔玉眼入りの仏像である。部分的に後世の修補があり、漆箔の上に粗悪な黒色の塗が施されていて黒仏ともいわれる。

豊かな頬、頸の三道、肩から腹部にかけてのやわらかな衲衣、膝部の左足

あたりから左に流れる彫りの浅い衣文の美しさは藤原期の特徴をもっている。

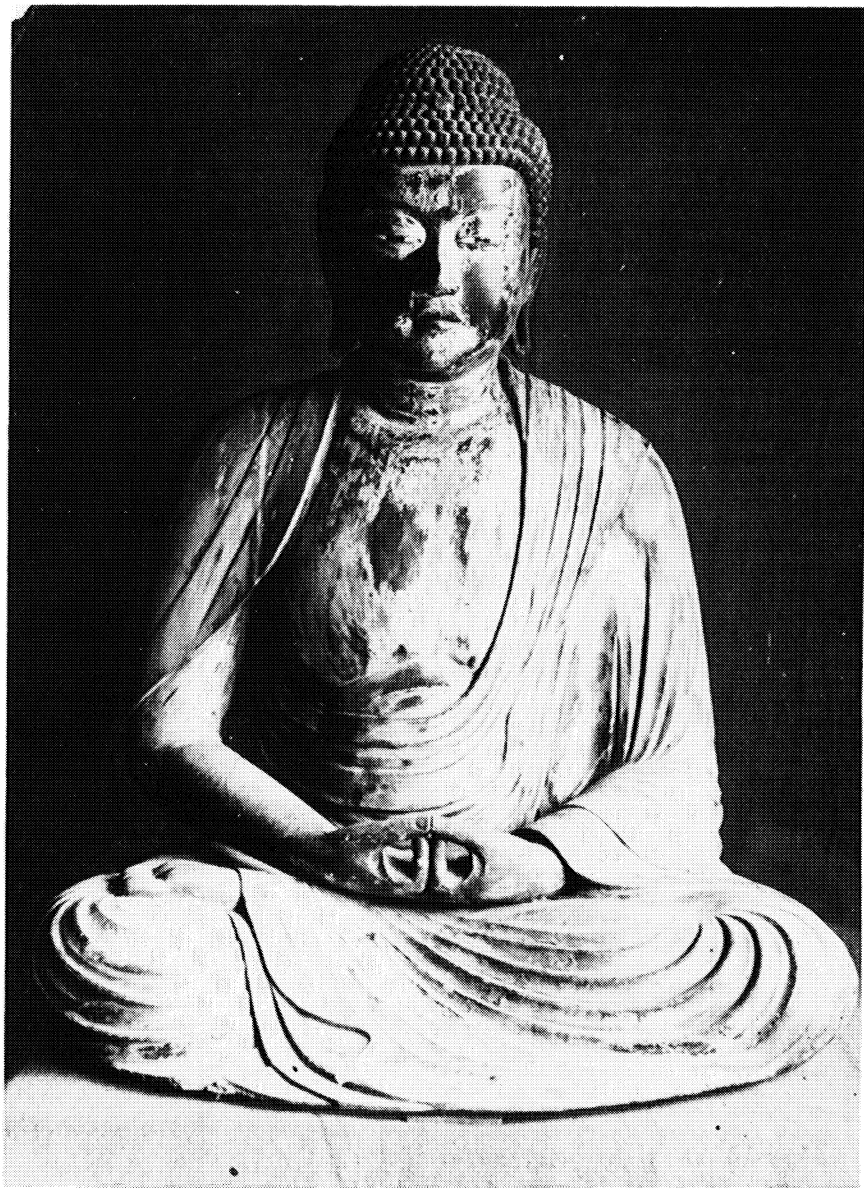
しかしややつり上がった眼の切れなことからみて時代はやや下がり鎌倉時代初期の造頭とみられる。

寺伝には宝永元年京都より海路下つたことが記され、黒仏の伝説があるの

で、本県において製作されたものではない。しかし若松の仏師がわざわざお参りに来たなどの口伝があつて、江戸時代の会津仏師に多大の影響を与えたものと思われる。

(拝観希望者は伊南村教育委員会に連絡して下さい)

(所有者 善導寺)



木造阿彌陀如来坐像